

笑ってごらん

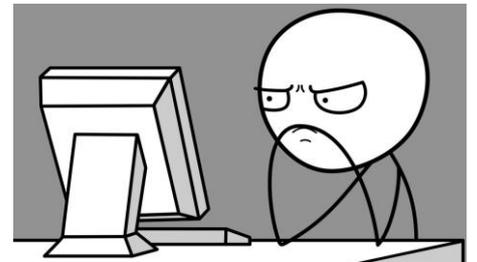
第 590 号 H. 29. 7. 4 発行

～今日のことば～

誰でもできるかも知れない「仕事」を与えられたら、その時こそ、誰にもできない「仕事」にしてやろうと思いなさい。
(糸井重里)

◇◆たくさんの方々とお話をさせていただく機会に恵まれているが、相手の様子を見ていて、指の組み方や腕の組み方について、「あ、自分とは逆だ・・・」、「この人は同じ・・・」と、以前から気になっていた。ある記事にそれがまとめられていたので紹介する。まず、両手の指を組んでみて欲しい。さて、どちらの手の親指が「下」になっているだろうか？ 左手親指が下の人を『さ』、右手親指が下の人を『う』と呼ぶことにする。次に、両腕を組んでみて欲しい。さて、どちらの腕が「下」になっているだろうか？ 左腕が下の人を『サ』、右腕が「下」の人を『ウ』と呼ぶことにする。すると、左親指・左腕が下の人には『さサ』、右親指・左腕が下の人には『うサ』、左親指・右腕が下の人には『さウ』、右親指・右腕が下の人には『うウ』という4つのパターンが生じる。これはどうやら各人の脳（考え方）の特徴を表しているらしいのだ。指の組み方は情報の INPUT の仕方を、腕の組み方は情報の OUTPUT の仕方を象徴しているとのこと。

◆①『さサ脳』・・・「論理的に捉え、論理的に処理」物事を筋立ててマジメに考えるタイプ。几帳面で努力家。②『うサ脳』・・・「直感的に捉え、論理的に処理」完璧主義。自分で決めたい個性派。③『さウ脳』・・・「論理的に捉え、感覚的に処理」理想と現実のギャップに苦しむ自己矛盾型。転じて細かいことは気にしないタイプ。④『うウ脳』・・・「直感的に捉え、感覚的に処理」楽天的でマーペース。直感とひらめき重視な感覚人間タイプ。……さてさて、



皆さんはどのタイプだったでしょうか？ ん？こんなこと書かれるとおちおち人前で指や腕を組めなくなる？・・・確かに！ まあ、これはあくまで一説に過ぎないので、これで落ち込む必要も無い。ざっくりと参考にしてみて。あれ？ひょっとすると、指や腕の組み方を変えると考え方のクセも変わっていくのかな？

◇◆デスクワークをしていると、いつもボールペンのお世話になっている。このボールペンの技術開発もものすごく、ただ書き味の追求だけにとどまらず、今では「消えるボールペン」なんていうものもある。この原理は摩擦熱でインクが透明になる方式だそうで、実はコールドスプレーなどで-20℃に冷やしてやると文字が復活するらしい。

◆ここからはちょっと数学的だが、1秒で50cmの直線を引く時のボールの回転数を求めてみよう。ボールの直径を0.5mmとして、1回転は0.5mm×3.14・・・50cmの線を引くためには約318回転である。これが1秒間でのことなので、1分間に直すと約19,000回転となる。自動車のエンジンの回転数は通常3,000回転。19,000回転というのはF1のレギュレーションでの上限回転数だ。つまり、F1におけるホームストレートを駆け抜ける最大スピードの際の限界回転数に等しい。加えて、筆圧の強い人は1kgくらいある。これを1点で支えている訳だから、平米あたりに換算すると、630tにも及ぶのだとか。驚き！

感謝道

◇◆朗報が届いた。豊留先生（数学、2-8 副）が2日（日）の鹿児島県陸上選手権大会、男子400mの部で準優勝に輝き、見事九州選手権の出場権を得た。昨日、校長室へ賞状を持って報告に来てくださった。日頃から笑顔を絶やさない先生だが、この時はことのほか嬉しそうだった。本校の先生が現役の選手として頑張っており、なおかつ

良い成績を挙げていることは大変嬉しいし、生徒たちの励みにもなる。九州選手権は8月お盆明けに宮崎での開催という。暑い時期の調整は大変なことだろうが、是非とも頑張って欲しい。皆で応援しよう！